

三条市租税教育推進協議会長賞

税金と私の生活

新潟県立三条高等学校 一年 石原 文 いしはら ふみ

「そうか。もう給食は無いんだ」

今年、高校に進学した私の生活はそれまでと一変しました。お昼ご飯もその一つ。弁当を持参するにしろ、コンビニで買うにしろ、とにかく自分で用意しなくてはいけません。ああ給食美味しかったなあ、とお世話になった地元の給食センターを入学当初は思い返していました。

時は流れて七月。この作文を書くにあたりあれこれ考える過程で「給食って税金で賄われていたんだっけ？」と思いあたりました。「でも待てよ。確か給食費は払っていたはず」と、ウェブで調べてみたら、「給食費は材料代に使われ、人件費などに税金が使われている」という新潟市による情報が載っていました。給食を無くして気付く有難み。小中学校の九年間、税金の恩恵を受けてきたことを今更にして実感しました。

生活の変化のもう一つに通学があります。中学生のときは自転車通学だったのが、今年からは電車通学になりました。問題は駅までの交通手段です。最寄り駅までのバスがなく、結局、朝夕、両親から駅まで送迎してもらっています。私のような地方に住む人たちにとって、隣の三条市の高校に通うのはなかなか大変です。私の友達は、高校のある市のはずれから公共交通バスで通っ

ています。「私も三条市民ならバスに乗れたのに」この件では、残念ながら私は税金の恩恵に与れませんでした。

一方、時間に余裕がある日は少し早めに下校して、駅のそばの図書館に寄ります。とても雰囲気の良い図書館で、本を閲覧するにも勉強をするのにもとても良い場所です。この件に関しては、私は三条市の皆さんの税金に支えられています。本当に有難いです。

高校生になって生活が変わり行動範囲が広がったことで、これまで身近にありながら気付かなかった税金との関わりを自覚し、感じ取れるようになりました。私はこれまでと同様にどこかで税金に助けられて生きていくでしょう。そのことに感謝して、毎日を過ごしていきたいと思います。